

令和3年12月9日

総務大臣 殿

広島市中区土橋町7番1号  
株式会社 中国コミュニケーションネットワーク  
代表取締役社長 小見山 文男

## 資料の提出について

標記について、放送法施行令第8条3号の規定に基づき下記の資料を提出いたします。

記

番組審議会の議事録

第104回（令和3年12月期）番組審議会の議事録

# 第104回番組審議会議事録

(株)中国コミュニケーションネットワーク

FM ちゅーピー 76.6MHz

開催年月日 令和3年12月9日(木) 午前11時

開催場所 中国経済クラブ(中国新聞社8階)

委員:総数7人

出席委員(敬称略)

委員 木谷 健(比治山学園専務理事)

委員 中山 正剛(広島大学スポーツセンター特任教授)

委員 中川 圭(乳がん患者友の会きらら理事長)

委員 吉田 朋子(和奏光夜実行委員会代表)

委員 向井 良(弁護士)

委員 木ノ元陽子(中国新聞社文化担当部長)

欠席委員

委員 中村 靖富満(やまだ屋社長)

会社側出席:

社長兼放送局長

小見山 文男

制作担当

堀部 正拓

営業担当

久保田 正明

議題

一、開会挨拶

一、番組試聴「減らそう犯罪情報官のコーナー」

一、ご意見・ご感想

一、訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

## ◆「減らそう犯罪情報官のコーナー」（11月15日放送分）

月～金曜に生放送している情報番組「朝ラジ！」で松原恵美が担当する月曜日に、広島県警の減らそう犯罪情報官が毎週生出演して防犯情報などについて発信している。現在の減らそう犯罪情報官は池岡晴樹さんで、この日は被害者支援カウンセラーの伊藤可奈子さんもゲストとして出演し、犯罪被害者の支援について解説してもらいました。

### <番組に対する委員の意見・感想>

・犯罪の被害者を保護しようという意識は最近までなかなか広まっていなかったのですが、こういう話題は取り上げるべきだと思う。平成初期のころの話だが、私が県警に出向して働いていたころは、犯罪被害者の支援組織というのはなかったと思う。被害者の心のケアというのはとても大切な話だ。また、本当に被害にあった経験のある方が出演すれば、もっと分かりやすさが増してイメージが変わるだろうが、プライバシーの問題で難しい面もあるだろう。

・身の回りで実際に被害にあった人がいないとこういう問題は意識しにくい。たとえば車を運転していてラジオでなんとなく耳に入っていれば、専門のカウンセラーがいるんだという情報を知っていれば、いざというときに被害者はどこに相談すればいいのかわかるので役立つかもしれない。こういう専門家の存在は広くは知られていないと思うので、大事なことだと思う。しかし「減らそう犯罪情報官のコーナー」というコーナー名はかたいかな。コーナー名にも工夫がいるのではないかな。

・行政によるコーナーで台本がしっかり作られている分、聞きやすい反面、面白みにかける。ただ、こういう啓発は普段は聞き流されやすいので、こういうコーナーで地道にPRを続けていくことが大切だ。情報官や専門のカウンセラーの存在が頭の隅に情報が残っていれば、問い合わせる人もあるだろうし、そういったことが被害者支援や防犯などにもつながると思う。

・前回の審議会で聞いた番組に比べると台本がきちんとしているかたちで作り方が違うというか、ふり幅がすごかった。内容はとてもよかった。当事者にならないとなかなかわからない面はあると思うが、リスナーが「こういう専門家がいるよ」と誰かに伝えることで被害者の支援につながればよいと思う。

・犯罪被害者の支援制度について前提の情報を知っているのについていけたが、情報量が非常に多いため、車などでふと耳にしたときには内容についていけないのではないだろうか。またトークの面白みにも辛いところがある。例えば「インターネットで犯罪被害者支援と検索してください」とか「〇〇のサイトを見てね」などと一言添えて、他媒体と連携する工夫をして「ちょっと見てみようかな」という仕掛けにすれば頭に残りやすいし周知につながると思う。

・台本を読むと棒読みになってしまうことがあるが、情報官もゲストの方も音節を区切ったり抑揚をつけたりしてリスナーが聞きやすい工夫をしていた。情報量が多いので、例え

ばパーソナリティーが相槌をうったり、聞き返して繰り返すなどして工夫をしたほうがいいかも。犯罪被害者をどう支援するのかという話はとても重要。一方でこの仕組みはそれほど広くは知られていない。例えば、どんな被害にあった方がいて、どんな悩みや不安を抱えて、どんな支援があつて、どう悩みの解消につながったかなど、具体的なケースの紹介があればもっとよかつたと思う。また、犯罪を防ぐという意味でインターネットなどでの新しい手口の解説などもぜひやってほしい。

◆訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

▽番組での訂正やリスナーからの番組に関する苦情についてはありませんでした。

▽11月27日（土） 土曜朝の情報番組「リュケイオン研究塾」を終了した。

以上